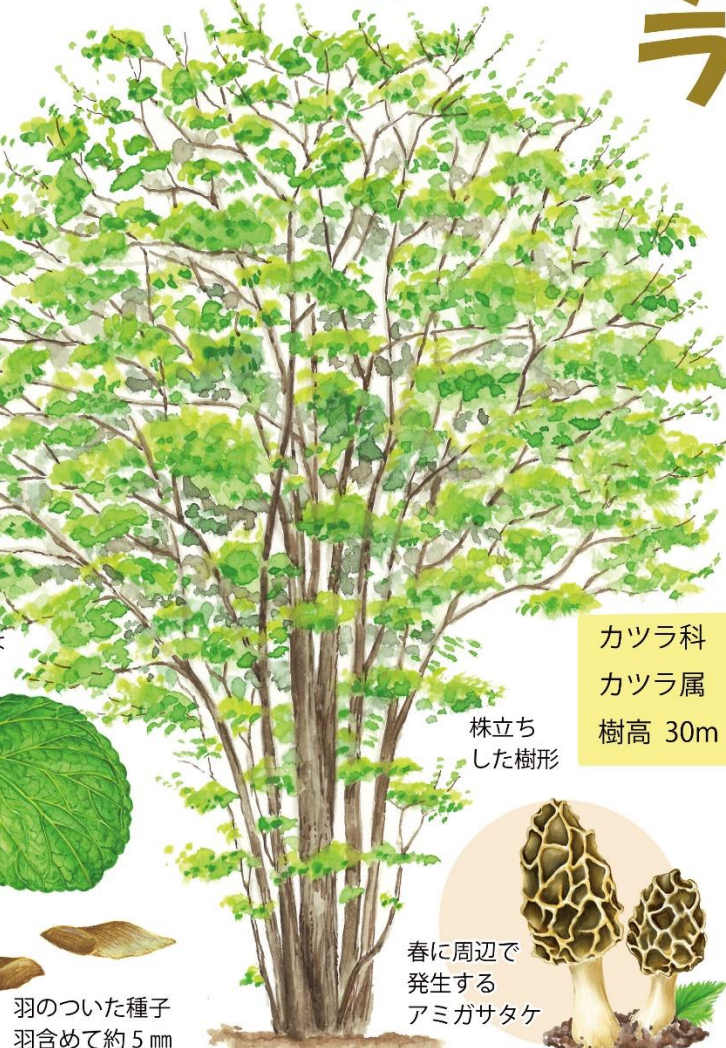


# カツラ

種子を食べる  
カワラヒワ (左)  
マヒワ (右)



## 四季の観察ポイント

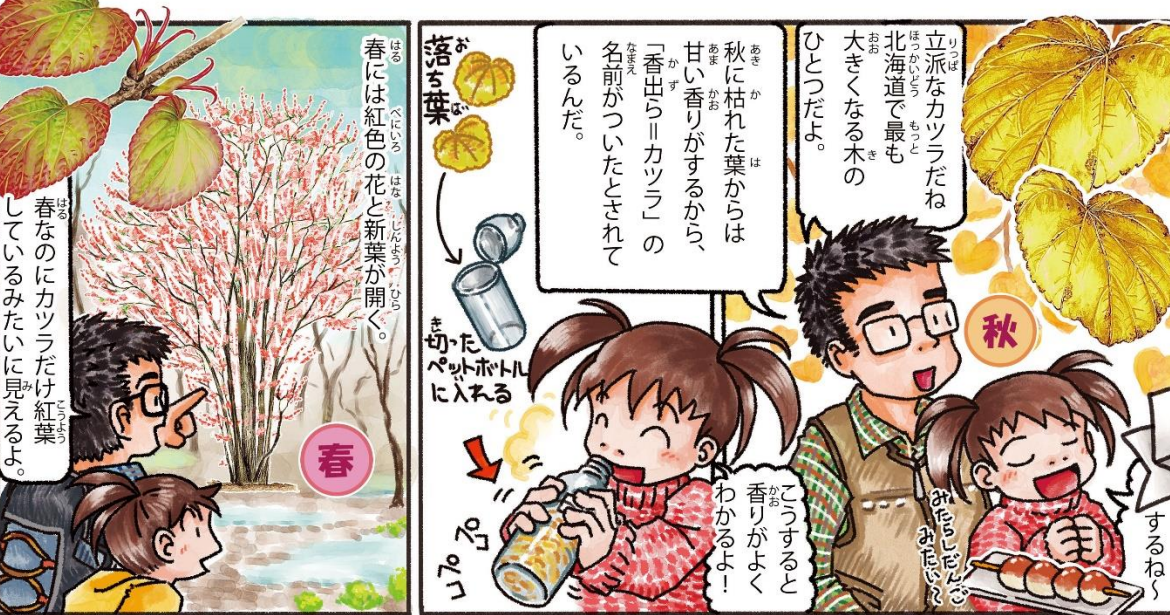


カツラは日本にだけ分布する一科一属一種の高木種で、谷に沿った溪畔林によく見られます。根元近くから何本も株立ちすることが多く、成長も早い、北海道で最も大きくなる木の一つです。

雌雄異株の風媒花で、春に、まず紅色の小さな花を咲かせたのち、葉も紅色で開くため、遠くから見ると山が燃えるように見えます。また、秋の落ち葉は甘いカラメルのような香りがすることから「香出すカツラ」の名がついたとされています。

白亜紀の地層から花粉が発見されるなど、太古から生きてきた木です。

## カツラの絵日記



## カツラとくらしのつながり

カツラの材は均一で柔らかいため加工しやすく、また、狂いが少なく、仕上がりが滑らかで光沢もあります。

カツラで作られた碁盤や将棋盤は、長時間打つても疲れなるとされまし

た。建築材、家具材、器具材等に利用される他、甘い香りの葉は抹香にしました。



## アイヌ民族とカツラ

アイヌ民族にとって、素直で細工しやすいカツラは、お盆や杵、臼など、あらゆる日用品、そして丸木舟を作るのに最適で、大切な木でした。

木の素性を見極めて、北側の面を船底にするよう船を作ったとされています。

狩りの時はカツラの下で野営をし、洞に入って風雪をしのいだとされています。

アイヌ民族の生活と深くかわって来たカツラには、伝承が数多く残っています。